

# サイトスペシフィック・アート ～民俗学者・宮本常一に学ぶ～

会期 2019年11月16日(土)～2020年1月13日(月・祝)

開館時間 平日/10:00～17:00、土曜・休前日/9:30～19:00、日曜・休日/9:30～18:00  
最終入館は閉館時間の30分前まで

休館日 毎週月曜日(ただし、2020年1月13日は開館)  
年末年始[2019年12月28日(土)～2020年1月3日(金)]

料金 一般600(500)円/大高生・65歳以上の方500(400)円。  
( )内は20名以上の団体料金。中学生以下・障害者手帳をお持ちの方とその介添者(1名)は無料。

主催 市原湖畔美術館[指定管理者:(株)アートフロントギャラリー]

## SITE-SPECIFIC ART -Learning from the Folklorist Tsuneichi Miyamoto

**サイト  
スペシフィック・  
アート**

**民俗学者・宮本常一  
に学ぶ**

開館時間  
平日10:00～17:00  
土曜・休前日9:30～19:00  
日曜・休日9:30～18:00  
(最終入館は閉館時間30分前まで)

休館日  
毎週月曜日(ただし、2020年1月13日は開館)。  
年末年始(2019年12月28日(土)～2020年1月3日(金))

料金  
一般:600円(500円)  
65歳以上の方・大高生:500円(400円)  
①内は20名以上の団体料金。  
中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方と  
その介添者(1名)は無料。

主催  
市原湖畔美術館  
[指定管理者:(株)アートフロントギャラリー]

木村 素人  
Takahito Kimura  
栗田 宏一  
Koichi Kurita  
曾我 英子  
Eiko Soga  
竹原 耕平  
Kohel Takakoshi  
中崎 透  
Tehru Nakazaki  
西野 達  
Tatzu Nishi  
深澤 孝史  
Takafumi Fukasawa

2019.11.16 Sat → 2020.1.13 Mon Holiday

市原湖畔美術館

**展覧会について**

この度、市原湖畔美術館では、民俗学者・宮本常一（1907-1981）の土地へのまなざしや思想を踏まえ、現代における土地の特色を活かした取り組みや、土地をリサーチした作品を発表するアーティストの活動ーサイトスペシフィック・アート（site-specific / site: 場所、specific: 特定の、固有の）に焦点をあてる展覧会を開催いたします。

宮本常一は、生涯にわたり日本全国をくまなく歩き、島や農村地帯に暮らす無文字文化の人々の暮らしを文字化するなど、それぞれの土地の特長やそこに生きる人々の知恵を独特な民俗学のなかに蓄積してきました。さらにそれを、具体的な生活のなかに活かそうとした人でもあります。社会問題がますます混沌・複雑化するなか、旅をしながら個々の土地に根差した実践を試みた宮本の姿は、今日でも私たちを鼓舞し続けています。

アーティストたちは、一方、従来の美術館での展示空間ーホワイトキューブを抜け出し、現実の課題がある土地に入りだしています。それぞれの土地における人々の暮らしや伝統、人々との交流を通して見えてきた、世の中から見過ごされているような事象に目を向け、それらを作品として表象化しています。

本展を通じて、民衆に寄り添い、土地の暮らしの向上などに尽力した宮本のまなざしや思想を学び、さらに今日のアーティストらによる、土地に根差した表現ーサイトスペシフィック・アートーに触れることで、我々が近代化を経て見失い、見えないまま過ごしてしまっている存在への深い共感を呼び、各自において、見えない大切なものを見る眼を育てるきっかけになることを期待します。

**参加作家（50音順）：**

木村崇人、栗田宏一、曾我英子、竹腰耕平、中崎透、西野達、深澤孝史

宮本常一関連監修：中村寛（多摩美術大学准教授、文化人類学）

**展示構成****第1章：民俗学者・宮本常一に学ぶ**

宮本が生涯にわたり取り組んだフィールドワークを通じて、宮本の土地へのまなざしや思想を紹介します。

**第2章：サイトスペシフィック・ミュージアム**

今日、日本全国で行われているそれぞれの土地や暮らしに根差した活動や情報を紹介します。

**第3章：土地をリサーチするアーティスト**

土地に入り、その土地の自然や人々の暮らしなどのリサーチを通じて、見えてきたその土地の特色などを作品として発表しているアーティストを紹介します。



## 宮本常一について



周防大島文化交流センター所蔵

## 宮本常一（1907-1981）

1907年、山口県周防大島に生まれる。天王寺師範学校専攻科を卒業後、小学校教諭として従事する傍ら、自身の出身地である周防大島の昔話の整理などを行った。その取り組みを通じて、柳田国男や渋沢敬三に出会い、1939年に渋沢が主宰するアチック・ミュージアムに入所。本格的に民俗学者としての道を歩み始めた。

日本全国を歩き、各地の生活を見、人々から話を聞いてまわった。そしてその見聞をもとに、多種多様な民衆の生き様を活写し、膨大な記録を残した。また、いわゆる民俗学者や調査隊としてだけでなく、農業指導や離島振興に尽力するなど、実践者としての一面も見逃せない。活動や興味の幅は尽きることなく、1981年に亡くなるまで、精力的に国内外でフィールドワークを続けた。

主著に、『宮本常一著作集』（51巻）、『私の日本地図』（15巻）、『忘れられた日本人』、『民俗学の旅』など。

## 宮本常一関連部分監修



## 中村寛

多摩美術大学准教授。専門は文化人類学。「周縁」における暴力、社会的痛苦、差別や同化のメカニズム、反暴力の試みや芸術・文化運動、ソーシャル・デザインなどのテーマに取り組み、『人間学工房』を通じた文化運動もおこなっている。著書に『残響のハーレム—ストリートに生きるムスリムたちの声』（共和国、2015）。編著に『芸術の授業— Behind Creativity』（弘文堂、2016）。訳書に『アップタウン・キッズ—ニューヨーク・ハーレムの公営団地とストリート文化』（テリー・ウィリアムズ&ウィリアム・コーンブルム著、大月書店、2010）。

参加作家略歴・  
展示作品について



### 木村崇人

「地球と遊ぶ」をテーマに、自然現象を世界の共通言語として捉え、国内外で作品制作やワークショップを行なっている。代表作に「木もれ陽プロジェクト」「カモメの駐車場」「雲になる日」「森ラジオステーション × 森遊会」など。主な展覧会に「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、「瀬戸内国際芸術祭」、「台湾麻豆糖業大地芸術祭」、「あいちトリエンナーレ」など。

本展では、千葉県市原市で 2011 年からリサーチし、現在まで継続して発表している《森ラジオステーション × 森遊会》を紹介。



### 栗田宏一

「世界の多様性」をテーマに数百種類の土を並べるインスタレーションを各地で発表。20年以上かけて日本全国全市町村の土採集を完了。同時にフランス全土の土採集も続行中。主な展覧会に「大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」など。

本展では、全国の土から選りすぐった土を日本地図の上に並べたインスタレーション《私の日本「土」地図》を展示。



© S.E.Holloway

### 曾我英子

人々の主観と社会環境を構築する要素の関係性に興味を持ち、活動をしている。「伝統的」と呼ばれる物や考え方に着目し、それらの背景にある文化や歴史がどのように現代に潜む問題に関連しているのか考察する。出会う人々との記憶を辿りながら制作を行い、それらを、映像、テキスト、インスタレーション作品として発表している。主な展覧会に「kuroko」(インデックス・フェスティバル、2019)、「たけとり」(CAI02、2019)、など。

本展では、北海道の二風谷でリサーチし制作した《秋鮭》を紹介。



photo by Chukyo Ozawa

### 竹腰耕平

木を通し、自然との関わりを考えながら、制作活動を行う。主な展覧会に「第 26 回 UBE ピエンナーレ」(現代日本彫刻展、2015)、「瀬戸内国際芸術祭、2016」、「葦崎市「幸福の小径」(2018)、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(2018)、「Gangwon Environmental Installation Art Exhibition」(2016-2018) など。

本展では、香川県小豆島でリサーチし制作した《小豆島の木》と「房総里山芸術祭いちばらアート × ミックス 2020」に向けてリサーチ中の《市原の木(仮)》の構想を紹介。





photo by Takuya Nagamine

### 中崎透

看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。展覧会多数。2006 年末より「Nadegata Instant Party」を結成し、ユニットとしても活動。2007 年末より「遊戯室（中崎透+遠藤水城）」を設立し、運営に携わる。2011 年よりプロジェクト FUKUSHIMA! に参加、主に美術部門のディレクションを担当。

本展では、宮城県石巻市でリサーチし、発表した《Peach Beach, Summer School》、「夜側のできごと」《Peach Beach, Sunset to Sunrise》、愛知県豊田市で取り組んだ《としのこえ、とちのうた。》を紹介。



photo by Sachiko Horasawa

### 西野達

屋外のモニュメントや街灯などを取り込んで部屋を建築しリビングルームとして公開、あるいは実際にホテルとして営業するなど、公共空間を舞台とした人々を巻き込む大胆で冒険的なプロジェクトで知られる。主な活動としてシンガポールのマールライオンを使ったホテルプロジェクト《The Merlion Hotel》(2011)、NY マンハッタンのコロンブスのモニュメントを使用したプロジェクト《Discovering Columbus》(2012) など。

本展では、アメリカニューヨークで発表した《Discovering Columbus》などのこれまでに取り組んだプロジェクトを紹介する他、「房総里山芸術祭いちはらアート × ミックス 2020」に向けて構想中の駅舎をホテルにする《上総久保駅ホテル》を紹介。



### 深澤孝史

場や歴史、信仰、そこに関わる人の特性に着目し、他者と共有する方法を模索するプロジェクトを全国各地で展開。

主な活動として、漂着神の伝説が数多く残る町で、漂着廃棄物を現代の漂着神として祀る神社を建立した《神話の続き》「奥能登国際芸術祭」(2017)、里山に民泊し、土地特有の近代化の資料を集めていく《越後妻有民俗泊物館》「大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ」(2015)、など。

本展では、タイで制作、発表した《Football Field For Buffalo》の他、現在「房総里山芸術祭いちはらアート × ミックス 2020」に向けてリサーチ中の《音信の鈴（草案）》についてを紹介。

## 本展のみどころ

## 一宮本常一の民俗学

宮本が生涯にわたり取り組んだフィールドワークを、直筆の調査ノートや、原稿、調査のために撮りためた写真などを用いて紹介します。

## 一迷路に張り巡らされた各地のサイトスペシフィックな情報

日本全国各地で展開されているサイトスペシフィックな活動の紹介が迷路の中に張り巡らされ、自身の足で実際に訪れてみたい場所を探しに行くことができます。

## 一アート作品とその背景とそれぞれの思い

本展出展作家7名の作品と併せて、サイトスペシフィックな作品を作る上でのそれぞれの背景や込められた思いを知ることができます。

## 一「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」へ向けて

2020年3月20日より開催される「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020」に向けて、すでに里山での人々の暮らしや自然へのリサーチが始まっています。それらの過程の一部を本展にて紹介します。

## 参考図版



1. 宮本常一「対馬調査ノート『42 対馬調査5 豆酸 浅藻』他」周防大島文化交流センター所蔵 / 2. 木村崇人《森ラジオステーション×森遊会》 / 3. 栗田宏一《ソイル・ライブラリー》 / 4. 曾我英子《秋鮭》©Eiko Soga / 5. 竹腰耕平《小豆島の木、屋形崎 夕日の丘より》 / 6. 中崎透《Peach Beach, Summer School》撮影：越後谷出 / 7. 西野達《Discovering Columbus》 / 8. 西野達《A Doll's House》 / 9. 深澤孝史《Football Field For Buffalo》



## 関連イベント

## 1. オープニング記念トーク&amp;レセプション

日 時：11月16日（土）12:00-14:30  
場 所：市原湖畔美術館 多目的ホール  
ゲスト：中村寛（宮本常一関連部分監修者）、  
木村崇人、栗田宏一、竹腰耕平、中崎透、西野達、深澤孝史（本展出展作家）  
モデレーター：北川フラム  
参加費：1,000円（事前申込制、別途要入館料）  
※軽食の用意がございます。  
※当館HPより、お申込みいただけます。

## 2. トークショー「森と遊ぶ」

森と聞いて何を思い浮かべますか。生い茂った木々、小鳥のさえずり・・・森には森の景色があります。森をもっとよく知ると、森がとっても面白い場所ということがわかるはずです。本トークショーでは、『森ラジオステーション』制作者の木村崇人さんを行役、森と深く関わりのある方々をお招きして、森に生きる動物たちの足跡から見る森やラフティングから見る森など、森のディープな世界をお話いただきます。これまで見えてこなかった森を想像し、森について考えてみませんか。皆さんの森の見方が変わるトークショーです。

日 時：11月23日（土）13:30-15:30  
場 所：市原湖畔美術館 多目的ホール  
ゲスト：大窪毅（本流堂）、大西信正（南アルプス生態色）、手戸博信（アーボリスト）、  
戸田美樹（コウモリの研究者）、渡邊朗男（トラッカー）、北川フラム（市原湖畔美術館館長）  
進 行：木村崇人（本展出展作家）  
参加費：500円（別途要入館料）  
定 員：40名（先着順、事前予約制）  
※ジビエ料理の試食がございます。  
※随時、当館HPにて申込受付開始いたします。

## 3. トークイベント「いま、宮本常一から学ぶこと～つくり手たちの視点から～」

宮本常一を主人公とした戯曲を書いた劇作家・長田育恵さん（劇団てがみ座主宰）と、宮本の足跡を自らの足で追いかけた文筆家・木村哲也さん（『宮本常一を旅する』著者）をゲストにお招きします。宮本の活動に触発され、次なる創造へと結びつけられたお2人に、つくり手／書き手の視点から現在に生きる宮本常一の魅力について、宮本常一関連部分監修の中村寛さん（多摩美術大学准教授／人間学工房代表）を進行にお話を伺います。

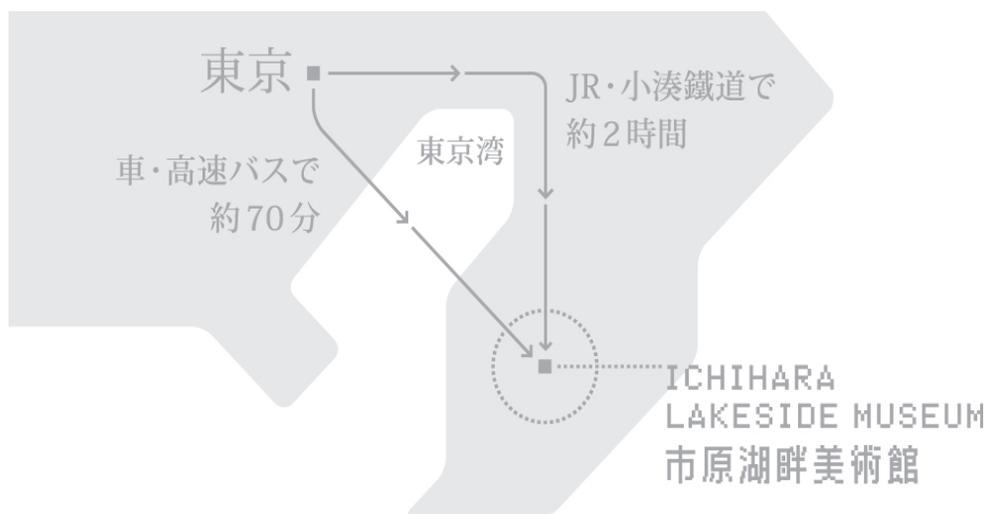
また冒頭では、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」や「いちばらアート × ミックス」などの総合ディレクターである北川フラム（市原湖畔美術館館長）が、「サイトスペシフィック・アートと宮本常一の結節点」というテーマで、自身の活動にも強く影響を与えた宮本の活動を見直すことの意味についてお話しします。



日 時：2020年1月11日（土）14:00-15:30  
場 所：市原湖畔美術館 多目的ホール  
ゲスト：長田育恵（劇作家、劇団「てがみ座」主宰）  
木村哲也（『宮本常一を旅する』著者）  
北川フラム（市原湖畔美術館館長）  
進 行：中村寛（本展 宮本常一関連部分監修者）  
参加費：1,000円（事前申込制、別途要入館料）  
定 員：50名（先着順、事前申込制）  
※当館HPより、お申込みいただけます。

### アクセス

所在地：〒290-0554 千葉県市原市不入 75-1  
鉄道で：JR 内房線五井駅乗り換え 小湊鉄道「高滝」駅より徒歩 20分 / レンタサイクル 10分 / タクシー 5分  
お車で：圏央道「市原鶴舞 IC」より約 5分  
高速バスで：東京駅・羽田空港・横浜駅より約 1時間  
（市原鶴舞バスターミナルよりタクシー 約 5分）



### 広報についてのお問い合わせ

市原湖畔美術館 担当：宮内、鶴谷  
tel：0436-98-1525 fax：0436-98-1521  
press@lsm-ichihara.jp www.lsm-ichihara.jp

